

# 雪国の安全・安心な地域づくりを考える活動報告会 開催概要

## ●活動報告会の目的

令和3年度に創設された「豪雪地帯安全確保緊急対策交付金」を活用して、安全な地域づくりの将来構想とその実現のための地域のルールや取組を定める「地域安全克雪方針」の策定に取り組む自治体からの活動報告と、有識者からのアドバイスについて、参加者で共有することを目的として開催。

## ●開催概要

日時：令和5年2月28日（火）9:30～11:30

※11:30～12:00 個別の質問タイム

場所：オンライン開催

主催：国土交通省

出席者：豪雪地帯自治体担当者、過年度までの克雪体制支援調査支援団体関係者、  
雪国の未来を考える懇談会（地方振興課有識者懇談会）有識者（以下参照）、  
克雪体制づくりアドバイザー

※ウェブ67名

有識者：上村 靖司 長岡技術科学大学 機械創造工学専攻 教授  
筒井 一伸 鳥取大学 地域学部 地域創造コース 教授  
沼野 夏生 東北工業大学 名誉教授  
原文宏 一般社団法人北海道開発技術センター 理事  
諸橋 和行 公益社団法人中越防災安全推進機構 地域防災力センター長



SNOW INNOVATION 雪国の挑戦

令和4年度  
雪国の安全・安心な地域づくりを考える  
**活動報告会**

日時 / 令和5年 2月28日（火）9:45～11:30  
場所 / オンライン開催（9:30より接続開始）  
申込方法 / 2月22日（水）17:00までに受付フォームに登録

豪雪地帯安全確保緊急対策交付金を活用して、安全な地域づくりの将来構想とその実現のための地域のルールや取組を定める「地域安全克雪方針」の策定に取り組む自治体からの活動報告と、有識者からのアドバイスについて、参加者で共有する会議です。雪国の安全安心な地域づくりに関心のある方はどなたでもご参加いただけます。

【当日のプログラム】

9:30	リモート接続開始
9:45	開会 地方振興課挨拶 / 有識者紹介 / 趣旨説明
9:50	豪雪地帯安全確保緊急対策交付金の活用について
10:00	取組内容の発表 各20分 ①青森県青森市・②新潟県長岡市・③北海道余市町
11:00	有識者からの総括・アドバイス
11:25	閉会 地方振興課挨拶

【有識者】

●長岡技術科学大学 機械創造工学専攻 教授	上村 靖司
●鳥取大学 地域学部 地域創造コース 教授	筒井 一伸
●東北工業大学 名誉教授	沼野 夏生
●(一社)北海道開発技術センター 地域政策研究所 所長	原 文宏
●(公社)中越防災安全推進機構 地域防災力センター長	諸橋 和行

〻 お申込み 〻  
・右のQRコードへアクセスし、受付フォームにて必要事項をご記入の上、ご登録ください。〔※切/令和5年2月22日（水）17:00〕  
・登録申込者へは事前に懇談用webアドレスを送付いたします。  
・アクセス数に限りがあるため応募希望者多数の場合、先着順とさせていただきます。  
※不明な点がある場合は、下記お問い合わせ先までご連絡ください。  
※申込URL <https://forms.gle/3QPQFNX4UM9E9RM9>

受付フォーム 

主催 / 国土交通省 事務局 / 国土交通省 国土政策局 地方振興課  
〔お問い合わせ〕 (一社)北海道開発技術センター 担当：小西・中前  
TEL:011-738-3363 FAX:011-738-1889 E-mail:konishi@decnet.or.jp

活動交換会チラシ

# 「豪雪地帯安全確保緊急対策交付金」活用団体より取組内容の紹介

## ●青森県青森市

地域概要・雪の困り事・既存共助体制等	方針検討のための調査方法	地域安全克雪方針	死傷事故の防止に向けた各種取組	取組上の課題や困っていること
<ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度の被害者数は55人、令和3年度は65人。このうち、半数以上は屋根・はしご等からの転落事故</li> <li>冬期歩行者空間確保除雪機貸与事業については、新規参加団体が少なく、共助組織の活動が停滞している状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート調査（雪下ろし作業の有無、克雪住宅率、案ヶー設置率・認知度、雪下ろしのヒヤリハット、雪下ろし作業の今後の意向等）</li> <li>雪下ろし助成額や根雪処理施設設置支援額の推移の観察による制度の見直し検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域内共助の組織化に積極的な自治会を中心に継続的に支援していく将来構想を検討</li> <li>R5年度は市民ワークショップを実施予定</li> <li>上記を踏まえ、方針策定へ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小型除雪機貸与</li> <li>青森市除排雪業務総合管理システム整備※</li> <li>除雪安全用具の貸出し、安全講習会</li> </ul> <p>※令和5年度冬期の稼働に向けて、除排雪プロセスに関わる情報を一元的に集約するプラットフォームを構築</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来シーズンに向けて除雪安全対策の普及啓発を行いつつ、地域支援を引き続き行っていきたい。</li> </ul>

### 有識者からのアドバイス・質疑応答

 <p>沼野委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>青森市除排雪業務総合管理システム整備については、個人情報との関係もあり困難な部分もあろうかと思うが、例えば町内会内で情報を共有し共助に活用できる方策も検討いただきたい。</li> </ul>
 <p>諸橋委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>青森市除排雪業務総合管理システム整備に興味がある。現行の共助除雪の担い手から別の担い手に交代したときの対応としてもこのシステムを活用できるかと思った。</li> <li>また、この取組の今後の展開にも興味があるので、今回のような機会でも他の自治体等にも共有してほしい。</li> </ul>

# 「豪雪地帯安全確保緊急対策交付金」活用団体より取組内容の紹介

## ●新潟県長岡市

地域概要・雪の困り事・既存共助体制等	方針検討のための調査方法	地域安全克雪方針	死傷事故の防止に向けた各種取組	取組上の課題や困っていること
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成の大合併と新潟県中越地震を同時に経験した都市</li> <li>同じ長岡市でも、海沿いと山沿いでは積雪の状況が異なり、山沿いの集落は少子高齢化の影響で担い手不足が顕著</li> <li>過去の除雪作業の死傷者は6割近くから屋根からの転落。</li> <li>令和3年度屋根雪下ろし命綱固定アンカー設置費補助金開設</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必須である地域懇談会に加え、有識者会議を設置</li> <li>地域の専門家や防災組織など各主体の取組を組み合わせる「雪かきのベストミックス」という考え方が重要。</li> <li>地域懇談会は、異なる体制で活動している3つ地域を選定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年3月に地域安全克雪方針（案）作成</li> <li>令和5年度にて、有識者会議を開催し、方針を策定する予定</li> <li>令和5年度にて、共助組織や屋根雪下ろし事業者の実態調査、降雪前の屋根形状カルテデータベース化の実証事業を実施予定</li> </ul>	<p>【令和4年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>除雪共助組織活動への支援</li> <li>除雪有償ブースター制度（YUBO）強化への支援</li> <li>命綱固定アンカー活用ガイドブックの制作</li> </ul> <p>【令和5年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>除雪共助組織活動への支援の拡充</li> <li>有償ブースター制度全市拡大</li> <li>無人屋根雪除雪技術研究支援</li> <li>除雪事故防止啓発動画制作</li> <li>除雪事故早期発見アプリ開発支援</li> <li>除雪作業事故予報システム研究支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事故防止の観点は重要であるが、現実にはアンカーがないと屋根に登れないことから、現実に見合った運用も重要と考える。</li> <li>試行的取組（安全克雪事業）を実施させるには、自主財源では継続が困難であるため、地域安全克雪方針に、実効力を持たせたい。</li> <li>市内の若年層にも雪下ろしを経験することで、正しい雪下ろしができる文化を作っていきたい。</li> </ul>

### 有識者からのアドバイス・質疑応答

 <p>原委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域懇談会は具体的にどのような地域で行っているか？方針づくりでは、地域ならではの文化や歴史も考慮したらよいと思う。 →社会福祉協議会が積極的な地域、青年層が積極的な地域、広域的な地区連携が整備されている地域の3か所を選定。 有償ブースター制度全市拡大とあるが、外部人材は具体的に誰を対象としているか？ →コロナ禍の影響もあり、現在は長岡市内の市民への呼びかけを予定している。</li> <li>除雪作業事故予報システム研究支援については、気象予報士やメディアとも検討段階から取り組んだら良いと思う。</li> </ul>
 <p>筒井委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>長岡市の取組は先進的なので、結果のみではなくプロセスも含め、長岡市の取組を記録し、他の自治体にも共有してほしい。</li> <li>有償ブースター制度の他地域への展開はどのような手法で展開しようと考えているか？ →支所ごとに意見を聞きながら適した手法を考えていくが、回覧板で呼びかける。金額面も提示し、直接呼びかけることも想定している。</li> </ul>

# 「豪雪地帯安全確保緊急対策交付金」活用団体より取組内容の紹介

## ●北海道余市町

地域概要・雪の困り事・既存共助体制等	方針検討のための調査方法	地域安全克雪方針	死傷事故の防止に向けた各種取組	取組上の課題や困っていること
<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢化で住民による雪処理が重労働に。落雪が道路にだれ込む。</li> <li>道路除雪の除雪オペレーターの担い手の高齢化、新たな担い手確保を懸念。置き雪の量に対する住民の不公平感</li> <li>流・融雪溝の利用、地域団体によるボランティア除雪（農業者の有志16名、高齢化率75%）等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「冬の安全・安心な暮らしに向けた町民アンケート調査」に関するアンケート調査</li> <li>「除雪・排雪・雪下ろしなどについての課題と解決策について」をテーマとするワークショップ（3地区住民26名参加）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域安全克雪方針草案の作成し、R5年度に審議予定</li> <li>方針の柱は、「担い手不足の解消・組織づくり」、「啓発活動」、「事故ゼロに向けた取組」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>転倒防止融雪マットを配布</li> <li>除雪機のリース事業に向けた「除雪機講習会」の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>担い手不足の解消・組織づくり</li> <li>啓発活動</li> <li>事故ゼロに向けた取組</li> </ul>

### 有識者からのアドバイス・質疑応答



上村委員

- 豪雪地帯一般で共通している課題と地域ならではの課題がある。具体的には、共有課題は過疎高齢化、地域ならではの課題は雪の積もり方。特に北海道は屋根雪下ろしをする必要もない積雪量で過敏になっているような印象を受ける。→発表者もその通りの印象を持っている。余市町も現在は「不要不急な雪下ろしは不要」という普及啓発をすることを念頭におくようシフトチェンジした。
- 雪止め金具もないので、作業床としても不安定。気にしなくても良いことに過敏になり、結果転落事故や落氷雪事故に遭っているのが現状ではないかと思う。→建築基準による説得のみではなく、そもそも高所作業は危険だという普及啓発のアプローチもあると思う。今後は余市町と住民に届くメッセージを考えていきたい。

## 有識者からのアドバイス



諸橋 和行 委員

- 雪の問題は地域性もあるが、安全確保や雪処理の担い手の確保は共通する課題でもある。
- 除雪業者よりも住民の雪下ろし事故が大半であることから、住民の転落対策を優先するほうが良いかと思う。現在、はしごやアンカーは試行錯誤の段階。
- 一方、担い手の確保はなかなか特効薬はない。すでに積極的な地域団体や行政の地域支援を整理することで、ベストミックスの議論ができる。
- 方針策定は単独の部局で作成するのは勿体ない。他の部局や外部の力も借りながら方針策定に取り組んでほしい。複数年かけてじっくり検討してほしい。



原文宏 委員

- 本活動報告会に先立って道内の活用団体に事前にヒアリングをしたところ、自治体ごとで状況は違う印象を受けた。さらに、今置かれている状況が5年後きっと異なっているだろうと感じた。方針策定では今の状況だけではなく、将来も展望も想定してほしい。
- 地域内の除雪業者の担い手も少なくなっていると感じた。自治体が直営で屋根雪下ろしを代行する時代がくるかもしれない。
- 活用団体で有益なアンケートをとっているのが、エリアごとなどで整理し近隣市町村ともシェアすると良いと思った。



沼野 夏生 委員

- アンケートやワークショップから根拠を積み上げて課題を見つけたり計画づくりをしている点は丁寧だと思ったが、公平性の観点から行政域全体の計画づくりとなっている。
- これまでの経験上、地区特有の課題を共有することで新しい発見もあった。ボトムアップのアプローチもできないだろうと感じた。
- 情報技術を活用した取組など地域内の先鋭的な取組を把握し、それを自治体内に横展開する手法や雪の困り事を抽象化したワークショップの手法などさまざまなアプローチがあることもわかった。
- そして、このような調査を通して地域団体も巻き込んだプラットフォームを形成してほしい。

## 有識者からのアドバイス



筒井 一伸 委員

- 無積雪期から積極的に事業を展開してほしい。
- 生活と雪は切り離せない。例えば、地域の安全計画なども総合的に検討できるような幅広に本事業を活用できたら良いと感じた。そうすることで、一年間を通じたコミュニティの安全を検討できる。
- 行政以外にも雪対策をしている団体があるので、連携してほしい。
- 過去のモデル事業にもヒントがあるはずなので、ぜひ参考にしてほしい。



上村 靖司 委員

- 機械や資材を貸与するのみではなく、講習会とセットで展開していることは良いと思った。
- 長岡市の地域懇談会に参加してみて、「担い手の不足」よりも「枯渇」の印象を持った。既存の取組を組み合わせることで、地域ごとの組み合わせで対応していくことになる。
- 雪処理の担い手が事業者も含め減少しているのは確か。支え手が減り、支えられる側が増える切実な現実を踏まえた方針づくりをお願いしたい。
- 群馬県片品村では個別支援計画が丁寧に作られていた。
- 自助できる人づくり、互助できる地域づくり、共助できる社会づくりを長期的な目線でどうやって地域を持続していくかといった観点で検討してほしい。
- 過去からの文化を失いつつある危機感と過去からの文化が新しい体制に移行できない難しさが共存する時代において、新しい雪国文化を形成していかななくてはならないと強く感じている。

## 《アドバイザーガイドブックの紹介》

### アドバイザーガイドブック

### アドバイザーガイドブック（アドバイザー紹介編）



## 克雪体制づくりアドバイザーガイドブック

令和3年3月  
国土交通省 国土政策局 地方創生課

### 申請から派遣までの手続き

- 相談**
  - 選考事務局に電話またはメールでご相談ください。
  - 派遣に当たらない相談でも受け付けていますので、お気軽にご相談ください。
- 協議**
  - 「雪国の未来を考える懇話会（雪国地帯対策）推進する有識者で構成される懇話会」の委員、又はご所属、選考事務局が対談をお招きします。
- 決定**
  - 派遣の可否について、選考事務局から申請書にご返信します。
  - 相談内容に依り、高い効果が期待できるアドバイザーを通知します。
- 申請**
  - 「克雪体制づくりアドバイザー申請書」を選考事務局に提出いただけます。
  - 提出後、派遣に向けた調整を行います。
- 派遣**
  - アドバイザーが派遣に同意し、派遣先へ行く予定です。
  - オンラインによるアドバイザーの派遣先決定の場は、申請書類を添付した書類を提出の上、決定させていただきます。
- 報告**
  - 「克雪体制づくりアドバイザー活動報告書」を選考事務局に提出いただけます。
  - 活動報告は必須ではありません。派遣先で活動報告する目的は、派遣先が活動内容を把握し、今後の活動に活用することです。

### 克雪体制づくりアドバイザー派遣制度の活用例

派遣先による報告活動の活用例  
＜活動報告活動＞

- 地域課題の把握と解決  
地域課題の把握により、課題の抽出・解決による政策の検討が促されることに加え、応募者が所属する自治体の課題解決の取組を支援し、関係機関との連携を促すことへの効果。
- 地域課題の解決  
応募者の経験やスキルを駆使し、課題の解決に向けた取組を支援し、関係機関との連携を促すことへの効果。
- 地域課題の解決に向けた取組の支援  
応募者の経験やスキルを駆使し、課題の解決に向けた取組を支援し、関係機関との連携を促すことへの効果。

派遣先による政策立案の活用例  
＜政策立案活動＞

- 政策立案の支援  
応募者の経験やスキルを駆使し、政策立案に向けた取組を支援し、関係機関との連携を促すことへの効果。
- 政策立案の支援  
応募者の経験やスキルを駆使し、政策立案に向けた取組を支援し、関係機関との連携を促すことへの効果。
- 政策立案の支援  
応募者の経験やスキルを駆使し、政策立案に向けた取組を支援し、関係機関との連携を促すことへの効果。



### 克雪体制づくりアドバイザープロフィール

氏名	所属	主な活動地域
山本 浩一 (浩一) 山本浩一	国土交通省 国土政策局 地方創生課	全国
山本 浩一 (浩一) 山本浩一	国土交通省 国土政策局 地方創生課	全国
山本 浩一 (浩一) 山本浩一	国土交通省 国土政策局 地方創生課	全国
山本 浩一 (浩一) 山本浩一	国土交通省 国土政策局 地方創生課	全国
山本 浩一 (浩一) 山本浩一	国土交通省 国土政策局 地方創生課	全国
山本 浩一 (浩一) 山本浩一	国土交通省 国土政策局 地方創生課	全国
山本 浩一 (浩一) 山本浩一	国土交通省 国土政策局 地方創生課	全国
山本 浩一 (浩一) 山本浩一	国土交通省 国土政策局 地方創生課	全国
山本 浩一 (浩一) 山本浩一	国土交通省 国土政策局 地方創生課	全国
山本 浩一 (浩一) 山本浩一	国土交通省 国土政策局 地方創生課	全国

### 克雪体制づくりアドバイザー紹介編

## 克雪体制づくりアドバイザーガイドブック

アドバイザー紹介編

令和3年3月  
国土交通省 国土政策局 地方創生課

アドバイザー派遣制度の概要を紹介しています。

アドバイザー（令和4年度現在24名）の紹介をしています。